道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

本堂前の「極楽浄土」なるイルミネーション、独り占め♪

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

本堂の柱と同じカツラの木が160本並ぶ表参道には、41万球のLEDが灯された。

1986年、群馬ツーリング中のミスバイクたち。前列右から2人目がシェフの信ちゃん。

観光とは光を観ること。けれどこの一年、地球上のそこここが、それすら難しいコロナ禍にありました。私もそれらしい旅は、2泊3日のツーリング一回だけ。医療現場の闘いを聞くと、贅沢は言っておられません。けれど、どうしてもこれだけは行きたかったのは、長野デザインウィークの「善光寺表参道イルミネーション」。長野駅前から善光寺までの1・8キロの表参道と善光寺を、空間デザイナー長谷川喜美氏がプロデュースした光の饗宴です。昨年の台風19号の災害を被った長野市豊野町のイルミネーション街道を見に行けなかったリベンジでもありましたが、私が向かったのは、善光寺本坊の大勧進紫雲閣で大町在住の料理人児玉信子シェフ（以下信ちゃん）が提供する「イルミネーションディナー」。

信ちゃんは、私が20歳半ばからのバイク仲間であり、女性ライダーが集まるミーティングを創成期から一緒に主催してきた同志です。大型バイクやモトクロッサーで駆け回る姿はみんなの憧れでしたが、30代で調理師として渡米し修行。戻ってからは親が移住した大町で「農園カフェラビット」を独りで立ち上げ、新鮮野菜とジビエをコラボしたメニューで一躍時の人に。あちこちで長野の魅力を発信し、食育にも関わり、未来はこれから。が、なんと今年春から体調不良に陥りました（↑そりゃあ一人でできる仕事量じゃないよねと、誰もがツッコミを入れたくなるほどの働き者！）。今年は人気のレストランを長期閉鎖し、治療に専念。気になっていた畑に通っていたことはバレバレですが、彼女の薬はなんと言っても大地であり、免疫アップには欠かせなかったはず。まだ全快ではないものの、予定通りジビエディナーを提供するというので、さっそく夫と共に予約を入れました。実は私たちにとっては、13年ぶりのお酒を伴う外食とホテル泊。これまでずっとヤギや馬などの動物がいたので、二人揃っての外出は半日しかあり得ず、なんだか愉快な遠足気分です。でも外出自粛強化時期ではあるので、そちらも緊張しつつ…。

善光寺の照明は9日間で、その期間にたった2回（各16人限定）という特別ディナー。私が赴いた12月6日は、信ちゃんファンのミスバイクもいっぱい集まり、なんだか同窓会に。信ちゃんの夫（太田光氏）は生花が得意な元植木職人ですが、ディナー会場を驚きのインスタレーション（空間芸術）で彩るという、初めての夫婦コラボでもありました。テーマは「宴」。縁・自然・時・生産・成長が感じられ、じ～ん。今回の催しのテーマは「希望の光」で、誰もがコロナ禍の困難と向き合った2020年を共感し癒すというものでしたが、本当に様々な想いが溢れてきます。

光くんのオブジェ「UTAGE」の前で挨拶する信ちゃん。

アートなゴルゴーラソースのサラダ。

息を止めてパチリ！真ん中の光くん（スキーヤー）以外、全員が現役のライダー！

肝心のお料理ですが、まずは長野市の地酒の利き酒（リンドウやリンゴの酵母を使用した積善。銀座ミツバチプロジェクトも関係しているそうですが、驚くほど爽やかで美味しかった）と前菜（信州鹿のしぐれ煮、ジビエのエスニックロースト、根菜の辛味噌添え）から始まったジビエメニュー。燻製鹿とハーブミックスとエディブルフラワーのサラダ ゴルゴンゾーラソースの華やかさと美味しさといったら、もう！インスタ映えしまくり。メインの信州鹿の赤ワイン煮込みが配膳されると同時に花火があがって撮影会になってしまいましたが、少し冷めても全く関係ない美味しさで、満足げな笑顔が飛び交います。鹿の農業被害に悩む地区の問題に立ち向かうため、狩猟免許を持って自ら捕獲し捌いた鹿肉は、命を無駄にさせないという彼女の生き方そのもの。野菜も鹿肉も我が家からの血筋のヤギたち（食肉ではなく楽客のためのふれあい牧場）もですが、料理・動物・野菜・お客さまと、彼女の溢れまくりの愛には本当に驚かされます。大自然の中で味わう至福のランチは、人気のパワースポットでもあったので、再びみんなを幸せにしてくれる日を願うばかり。

あっという間に2時間が経ち、みんなの満足そうな顔に、信ちゃんも笑顔が途切れません。夫婦でやりきった安堵感、久々に味わうシェフとしての喜びがひしひしと伝わってきます。後ろ髪を引かれますが、ミスバイクたちで記念写真を撮った後、20時までという善光寺イルミネーションが気になって、猛ダッシュ。可笑しかったのは、なんとかかる時間で5分ほど堪能し、山門を出た5秒後にライトが落とされたこと（ラッキー！）。そして驚いたのは、ホテルまでの表参道も自粛の影響で多くがこの時間でクローズド。そういえば、コロナ後に夜の繁華街を歩いたのは初めてだったので、この光景はここ最近で一番の驚きだったかもしれません。当たり前だった日常が懐かしいけれど、ロックダウンの国々を思えば、外食できるだけ幸せなのかもと思えてきます。本当に美味しかった。素直に喜べる日々はまだ少し先でしょうが、みんなで乗り切りましょう！

九州の散歩道

宇宙へつながる「惑星ロード」

フリージャーナリスト　湯浅玲子

小惑星探査機「はやぶさ2」が、小惑星の資料の入ったカプセルを無事に地球に届けました。うれしく思うと同時に、思い出されるのは2010年の初代「はやぶさ」の感動的な帰還です。エンジントラブルや通信遮断など数々の難題に見舞われ、スケジュールを大幅に延長しながらもミッションを成し遂げて地球へ帰還した「はやぶさ」。その初代「はやぶさ」を打ち上げた場所が鹿児島にあります。といっても有名な種子島宇宙センターではありません。鹿児島県の肝付町（きもつきちょう）にある内之浦宇宙空間観測所です。

1962年に設立された内之浦宇宙空間観測所は、これまで大小400機を超えるロケットと、70年に打ち上げられた日本初の人工衛星「おおすみ」をはじめとした30機あまりの人工衛星、探査機を打ち上げてきました。観測ロケットや人工衛星などの打ち上げに加えて、それらの追跡やデータの取得も重要な業務で、「はやぶさ2」の追跡でも活躍しています。

ここは世界でもめずらしい山を切り開いて造ったロケット発射場で、地形を生かしてさまざまな建物が機能的に配置されています。このアイデアは「日本の宇宙開発の父」と呼ばれる糸川英夫博士が考えついたもので、敷地内には糸川博士の銅像も立っています。ロケット打ち上げ時や整備期間を除いて、いつでも自由に見学できる施設でもあるのです。

観測所で最も高い標高にあるのが衛星ヶ丘（ほしがおか）展望台。巨大なパラボラアンテナや、イプシロンロケットを打ち上げた発射台などが一望できます。天気が良ければ種子島や屋久島を見ることができ、種子島でロケット発射がある時はここで見学する人も多いのだとか。また入り口近くにある宇宙科学資料館は、宇宙研究の歴史を知るには最適です。

ところでタイトルにある「惑星ロード」とは、内之浦の市街地から観測所へ向かう国道448号のこと。途中にかかる橋に「火星」「木星」「土星」など太陽系の惑星の名前がつけられ、内之浦惑星ロードと呼ばれています。もちろん並びは惑星の配列順。そして各橋の親柱は、内之浦から打ち上げられた衛星やロケットの部品がモチーフとなっています。「宇宙へ続く道」をイメージしたという内之浦惑星ロード。観測所に向かう際にはちょっと足を止めて、どの惑星の橋なのか探索するのも楽しいかもしれません。

（写真協力：公益社団法人鹿児島県観光連盟）

衛星ヶ丘展望台から眺める内之浦宇宙空間観測所

内之浦惑星ロードを走ると見えてくるアンテナ類

ハッと思いました

今年はどんな年だったのかな？・後手後手の一年・人の本性発覚の一年・辛抱我慢の一年・丸投げで委ねられた一年・疑心暗鬼の一年・理不尽さを感じ、不安を抱えたままに、新年を迎えることになります。コロナ禍で何もかもが、冷え込んでいるようですが、一部ではニンマリとしている業種もチラホラあるようで。加えて、「何が何でも、GoToキャンペーンと五輪の開催だ」と、意気込む気配が、長引かせていると叫ぶ声が聞こえてきたり。

いつもと同じ時間が過ぎた事は事実です。これまでの歴史を明日へつなぐ、大切な経験と継続の時間として、新年に向かいたいものです。

それにしても、飲酒運転、煽り運転、無免許運転、高齢者ドライバー起因の事故、ひき逃げ事故、無頼な自転車など、減少する気配すらない。

今、確実に、新しい生活様式へと変化していますが、「人の頭の中」もそれなりに対応していかないとならない様です。年が明けても、のほほんとしてられません。

今冬季はラニーニャ現象で寒さが厳しくなると言います。皆さん、ご自愛の上良き新年をお迎えください。

どんな一年であっても、見えてきません。コロナのせいにして言い訳する不埒な輩もぽつぽつと。

何故でしょう？昨今はドライブレコーダーが普及し、確りと記録されている事を知らないのか、承知の上なのか、全く理解不能です。

散々な一年です。